



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 上田 正宙
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 長澤 貴士
	国内創立順位・1489	公共イメージ委員長 八塚 昌俊

第 1982 回 例会 9 月 8 日（月）

◇点 鐘

◇ソング “奉仕の理想”

◇ゲスト並びにビジターの紹介

ゲスト：米山記念奨学生 符 瓊 様
 カウンセラー 成伯 将史 様（富山西 RC）

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。今日は雷やら雨やら地震やらで大変な日になりました。今年は暦上なかなか物事がうまく決まらない年ですが、必ず成就する年と言われております。2度3度繰り返すことによって成就するそうです。

今日は符 瓊（フ ケイ）様、カウンセラーの成伯様ありがとうございます。符 瓊（フ ケイ）様の「瓊」という字は神社界で瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）という字で、天孫から初めて降りてこられた神様です。その瓊瓊杵尊の子孫が今生天皇へとつながっております。

「瓊」は、にぎわう、栄えるという意味で、せっかくなので覚えておいてください。符 瓊（フ ケイ）様の字を初めて見たときに、びっくりし、ケイさんとお読みするのかなと思いました。大和言葉でニギとお読みするのですが、先ほども言いましたが、にぎわう、人を栄えさせる、豊作になるという、非常によい言葉で我々は使っているのです、今日の卓話とても楽しみにしております。

本日は、理事会などもございます。該当される方は、よろしくお願いいたします。

◇委員会報告

*片岡直前会計より、2024-25 年度会計報告

*宮田監査委員長より、会計監査報告

◇出席報告 出席者 18 名 メイクアップ済 1 名

名誉会員	会員数	本日の出席率	8/25 例会 修正出席率
1 名	32 名	79.17 %	78.57 %

= 9月定例理事会の報告 =

1. 地区補助金について・・・承認

*8月25日（月）に地区より承認書が届く

- ①枝垂桜の名所を作り市民の憩いの場を作る事業
- ②高岡市近隣在住の外国人の子供への支援事業
- ③青少年の孤食をなくし子育て世代と地域との繋がりを支援する事業

*①～③についての活動時期

- ①植樹例会（11/17）
- ②アレッセ高岡卒業記念パーティー（3月下旬）
- ③オタヤこども食堂→ハロウィン

2. 受入交換留学生 Isaac William REYNOLDS 君について

（8月28日来日・受入）・・・承認

- 1) ホストファミリーについて
 - ・第一ホストファミリー 島会員
 - ・第二ホストファミリー 唐澤会員予定
- 2) 携帯電話（SIM）契約について
 - ・本人が契約または、ホストファミリーが契約
 - ・地区へ携帯電話契約に関しての書類を提出する
- 3) 預かり保証金について→島会員宅で預かり
- 4) 受入高校について
 - ・高岡向陵高等学校：8/29 話し合い
 - 聴講生として通学
 - 通学・学習に係る経費はクラブにて負担
- 5) 月一回例会出席について
 - ・出席時にホストファミリーへ謝礼、留学生に小遣いをお渡しする。
- 6) 日本語教育について→値上げ承認
 - ・アレッセ高岡にお願いをする（火曜日・土曜日）
 - 月1万円の報酬だったが、値上げを要請される。
- 7) 短期間の預かりについて

◇本日のプログラム（担当：米山記念奨学会）

卓話「これまでの歩みについて」

米山記念奨学生 符 瓊 様

皆さん、こんにちは！富山西ロータリークラブからまいりました、米山奨学生のフ ケイと申します。カウンセラーは、本日同行している成伯将史さんです。

今からは、自己紹介から「米山奨学金をいただいた後の体験」まで、私のこれまでの歩みについてお話しさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

改めまして、富山大学 数理・ヒューマンシステム科学専攻の博士課程2年に在籍しており、フケイと申します。多くの方は、私の名前に使われている「瓊（けい）」という漢字を見ると、「難しい字だね」といった反応を示します。その時、中国では今使われている簡体字のほうをお見せすると、「ああ、これは簡単だね」と言われることが多くなりました。私にとって、発音を聞くだけでは日本人の名前を覚えにくいのです。だから、同じように考えると、日本人にとっても外国人の名前を覚えるのは簡単ではないんじゃないかと思います。そこで、日本の皆さんが覚えやすいように、「風景（ふうけい）」という単語を思いつきました。長音なしの「フケイ」が私の名前です。

故郷は中国「湖南省」です。この海からは遠い場所で育ったこともあって、子供の頃から海への強い憧れがありました。その気持ちは、成長するにつれて少しずつ一つの趣味へと変わっていきました。「休みの過ごし方」と聞かれると、真っ先に思い浮かぶのは、やはり「海を見に行くこと」です。

週末のような短い休みには、自宅から1時間以内で行ける県内の海辺によく出かけます。波の音や潮風を全身で感じながら海を楽しむために、テントも購入し、寝転んで海を眺める時間を大切にしています。ここからは、これまで訪れた場所の写真を少しご紹介いたします。



スライドの上から順に、左から右へとご覧ください。

最初の写真は、海王丸です。この写真は、新湊大橋を車で通過しているときに撮影したため、少しブレたような動きのある写真になっています。

次は、岩瀬浜海水浴場。この場所では、いつも「写真では肉眼で見た美しさが再現できない」と感じていて、少し悔しい思いをしています。写真では水平線が分かれて見えるのですが、実際に見ると、海と空が一体となっていて、本当に美しいんです。

その次は、八重津浜海水浴場。こちらは、まだ雪が溶けていない時期に撮った一枚です。遠くに見える立山連峰も、まだ真っ白な雪をかぶっています。富山は、本当に雪景色も海景色も両方楽しめる、私にとって最高の場所です。

2行目。左からの2枚の写真は、どちらもテントの中から撮ったものですが、ひとつは砂浜に、もうひとつは芝生の上にテントを張っており、環境の違いがわかるかと思います。

最後は、雨晴海岸です。SNSなどでよく見る写真とは違うアングルですが、海岸線に沿って上り坂を歩いて行き、階段を下りたところから撮影しました。とても静かで、落ち着いた場所です。

こうして、いろいろな場所でさまざまな姿を見せる海を眺めるたびに、「やっぱり海が大好きだな」と、改めて実感します。

湖南という省名は、「洞庭湖という中国2番目大きな淡水湖の南にある地域」という意味からつけられました。

略称は「湘（しょう）」です。地図に現れている「湘江」にちなんでいます。南から北へ流れ、長沙（ちょうさ）など6つの都市を通過して、最終的に洞庭湖に注がれる省内一番長く、流域が広い川です。そのため、湖南に関係するものの名前には、「湘〇〇」という言葉がよく使われています。例えば、私の出身地は湖南省の西部にあり、「湘西（しょうせい）」と呼ばれています。

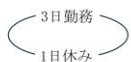
この地域には、土家族や苗族などの少数民族が多く暮らしています。その特徴を正式名称に反映させるため、「湘西トゥチャ族ミャオ族自治州」と名づけられました。また、別の例として、中国八大料理の一つである湖南料理は「湘菜（しょうさい）」と呼ばれています。辛味のある炒め物が特徴です。ですから、日本に来たばかりの頃は、食事に慣れるまでかなり時間がかかりました。今でも刺身とかの動物性の生ものはまだ食べられません。友人とお寿司を食べに行くときも、私はいつも火を通したもののしか食べていないんです。

私が日本留学を決意したきっかけは、主に4つあります。まず1つ目は、母国の大学に設けられていた、日中「2+2」ダブル学位の提携プログラムに恵まれたことです。1・2年次を母国で、3・4年次を日本で学び、両方の大学から学位を取れる仕組みになっています。

最初はあまり興味がなかったのですが、真ん中の2つの経験を通して考えが変わりました。2番目の「海外留学」という気持ちが強まったのは、母国の大学の雰囲気、に大きく影響を受けたからです。「小さな国連」と呼ばれるBLCUは、中国人学生と外国人留学生の比率が1.5対1という、他大学ではほとんど見られないほど国際性の高い環境を誇っています。毎年、世界100以上の国と地域から留学生が集まり、構内には非常に濃厚な国際交流の雰囲気が広がっています。なかでも象徴的なのが、2003年から、続く「世界文化祭」です。

当日は、在学学生がそれぞれの民族衣装を身にまとい、キャンパス内でパレードを行います。

・勤務スケジュール：



・海アクティビティ体験：

- ・パラセーリング
- ・シュノーケリング
- ・ダイビングライセンス講習
- ・マリンウォーク
- ・フライボード
- ・スタンドアップパドルボード
- ・：

③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩



ちょうどいいタイミングで、2018年の夏に沖縄の現地企業でインターンシップをする機会を得ました。そこらは、ダイビングなどを運営しているマリンスポーツの会社なんです。ここでの仕事は朝9時までの開店準備と9時以降の接客を中心でした。仕事の内容としては、語学力を活かして、外国からのお客様が来たら、通訳を担当します。全ての海に入るお客様にライフジャケットを配ったり、着き替えたものを青色の水桶で洗濯したりした仕事。体力的、脳力的に混ざったお仕事です。

写真左は、配属された支社でパラセーリングと、シュノーケリングを体験したときの様子です。写真右は、本社の慶良間諸島のダイビングスポットで、PADI講習を受けてライセンスを取得した際のものでした。



たくさんの素敵な出会いに恵まれました。大学の国際交流とはまた違う、実地ならではの雰囲気でした。

交流を重ねる中で、何よりも、「好き」という自分の気持ち、一番の原動力になるんだな〜と気づかされました。スライドに載せた写真をご覧くださいとわかるように、日本人でない顔ぶれが何人も写っています。私たちインターン生以外のほとんどは、ワーキングホリデーというビザで来日している人たちです。彼らはダイビングが大好きで、夏は沖縄、冬はオーストラリアなど南半球へ移動しながら、季節を追いかけるように海の仕事が続いているそうです。そんなふうに、「好き」という情熱を軸に、生き方を組み立てる姿に、心を動かされました。

また、日本社会への理解も深まりました。

その一つは、ダイビングを愛する友人たちとの交流を通して得られた気づきです。

彼らが従事している海の仕事というのは、世間的には「安定していない」とか、「社会地位が高くない」といったイメージを持たれがちかもしれませんが、現場では誰もそんなことで人を判断しませんでした。

むしろ、言葉も文化も違う日本という異国の地で、ただ「ダイビングが好き」という情熱を原動力に、ゼロから努力して、ついにはプロのインストラクターとしてお客さんを引率できるようになった彼らのことを、みんなが尊敬の目で見ていたのです。

こうした環境に身を置くなかで、私は、「日本社会には、人の努力をきちんと評価し、尊重する空気がある」と実感し、大変大きな安心感を覚えました。もう一つ、安心感を与えてくれたのは、日本の治安の良さです。過去の私は、夏になると夜ランをする習慣があるのですが、沖縄でも走っていました。日本では日が沈むとあまり人通りがないのに、治安の良さのおかげで、不思議とまったく怖さを感じませんでした。この1ヶ月間のちょっとした体験からも、「日本なら安心して留学できる」と確信しました。その自分の気持ちを両親に伝えたところ、すぐに理解してもらい、全力で応援しました。

最初の「2+2」プログラムの提携校は、金沢市にある北陸大学でした。そこに編入学し、「日本語を勉強する」から「日本語で勉強してみたい」という強い気持ちで、金融や会計の勉強を始めました。勉強を進めるうちに、自分は金融よりも会計にの興味があると気づきました。

もっと深く学びたいと思い、青学の会計専門職大学院に進学しました。ただ、最初は専門用語すらわからず、とても苦労しました。専門書を何度も読み、問題集を繰り返し解いていくうちに、少しずつ理解できるようになり、日商簿記の3級と2級の資格を取得することができました。この経験を通じて、「日本は本当に、努力すれば報われる社会だ」と実感しました。そしてその実感が、異分野ではありますが、博士課程に挑戦してみよう、という勇気につながりました。

北陸に戻って進学を目指したのは、ここが日本における「ふるさと」のように感じられたからです。

学部時代に過ごした2年間でとても穏やかで心地よく、自然と親しみが湧いていました。

自然災害も比較的少なく、研究に集中できる環境が整っているのも魅力です。一方で、東京に住んでいた頃は、夜中の2時や3時に地震で目が覚めることが多く、だんだんと神経が過敏になり、眠れない日々が続きました。そうした経験もあり、再び安心して生活できる北陸を選びました。

富大で、青学での2年間、コロナの関係で多くの授業が遠隔受講していました。それに伴う課題提出とかオンラインでやり取りするようになりました。そんな環境の中で、AI技術がますます進んでいるのを肌で感じました。周囲の多くの学生も会計を専攻していながら、就職先としてIT業界を目指していたことに驚きつつ、私自身もAIの可能性に強く惹かれるようになりました。そこで、異分野融合を通じて、学問の発展に貢献できるような研究に取り組みたいと考えるようになりました。

米山奨学生になってから初めて参加したロータリーの活動は、高岡クラブ主催の、台湾・板橋クラブの歓迎懇親会でした。

当日は、他の中国人奨学生の皆さんと一緒に、通訳として参加しました。会の始まる前には、こういうお弁当をいただきながら皆さんとお話しているうちに、もう一人の奨学生が、なんと、私と同じ湖南省の出身で、同じく 2+2 プログラムで北陸大学に編入され、日本に留学してきた後輩だということが分かりました。まさかのご縁に、私もとても驚きまして、嬉しく思いました。

両クラブによる姉妹締結の調印式が終わった後、懇親会が本格的にスタートしました。通訳を通じて交流をよりスムーズにすることで、会場の温かく活気ある雰囲気づくりに少しでも貢献できたことに、やりがいとコミュニケーションの意義を深く感じました。そして最後には、同じテーブルの台湾と日本の方からお土産をいただくという、心温まるサプライズもありました。この台湾のお茶と和菓子の羊羹を研究室に持ち帰って、みんなで味わったところ、大好評でした。

私が二度目に参加したロータリーの活動は、私が所属している富山西クラブが主催した立山・職場訪問でした。昼食をいただきながら例会に参加したあと、私たちは大観峰まで、散策しました。残念ながらその日は、山頂が白く霞んでおり、絶景を望めませんでした。それでも幸いなことに、最後には室堂周辺で元気に動き回るライチョウの姿を見ることができました。



富山西RC 立山・下期職場訪問例会 (2025. 05. 25)

能登・巖門 海岸清掃&復興学習体験
・被災地見学
・海岸清掃
・BBQ交流会



第2610地区 能登・巖門 海岸清掃&復興学習体験 (2025. 06. 14)

2610 地区の皆さんと一緒に参加した活動の様子です。まず最初に参加したのは、能登・巖門での海岸清掃やバーベキュー交流会でした。

その前に行われたユース・デーは、体調不良のため参加できませんでしたが、巖門では、多くの奨学生と初めて会ったのに、すぐに打ち解けることができました。

その後、大阪万博二日間の視察研修のご案内が来て、「また皆さんに会いたい!」という思いから、参加しました。こちらはその一日目の様子です。そして、これは万博会場で撮った集合写真です。



第2610地区 「大阪・関西万博」視察研修 (2025. 07. 05~07. 06)

最後になりますが、米山奨学金のご支援に心より感謝申し上げます。

おかげさまで、高額な APC を賄うことができ、経済的な不安が軽減され、勉強や研究にしっかり集中できる環境が整いました。

また、各種イベントにも参加する機会をいただき、各国から集まった優秀な奨学生と出会い、多くの刺激と友情を得ることができ、国際的な視野を広げることができました。さらに、食事の場でお世話になった皆様、交通の面で支えてくれた奨学生仲間にも、改めて感謝を申し上げます。心より感謝申し上げます。



◇幹事報告

- 1) 本日例会終了後、9月定例理事会を開催します。
- 2) 来週9月15日(月)は法定休日のため、再来週22日(月)は、例会取消のため休会となります。次回9月29日(月)例会は、山田容資会員の卓話となります。ご確認ください。
- 3) 回覧：①会報 NO.7 (テーブル毎)
②9/22 (月) 第83回北麗グリーン会コンペの出欠確認表
③10/6 (月) 高岡万葉 RC との合同懇親例会の出欠確認表
④10/6 (月) 高岡万葉 RC との合同ゴルフ大会の出欠確認表

◇ニコニコ BOX 報告

カウンセラー成伯 将史様：本日はよろしくお願ひします。
上田会長：符瓊さん、今日は高岡北ロータリーにようこそ。
卓話が楽しみです。成伯さんありがとうございます。
村牧啓功君：先日アスカⅡに乗船し、舞鶴と鳥取県に行って来ました。体調も良く楽しい4日間でした。
野尻信晴君：先日、北海道旅行に行って来ました。家内がラベンダー色の帽子を1,300円で買って、2日間喜んでかぶっていました。それを帰りホテルに忘れて着払いで1,960円支払いしました。

【今年度ニコ BOX 累計額 106,000 円】